

コースへの意見・要望

H20年度のアンケートで寄せられた、コースへの要望や質問についてお答えします。より詳しいアンケートの結果は、結果の分析とともにコースHP (<http://rock.eng.hokudai.ac.jp/sre/index-j.html>) に掲載しています。

Q. もっと授業数を増やしてハードにしてほしい。

他の学部・学科は非常にハードと聞くので多少劣等感を感じてしまう。

A. 劣等感を感じる必要はありません。当コースでは2年後に始まる大くり入試を見据え、現在、当コースのカリキュラムの見直しを行っています。ところで、大学というところは受け身ではなく、自分の意志、考えに基づいて主体的に勉強するところですね。他の学部・学科と同様に、機械的に授業のコマ数や宿題・レポートの量を増やすなどして目から血が出るくらい(そんなもん出るか！ゴメンネゴメンネ！)勉強してもらうように強いることは簡単ですが、当コースはそれを「よし」と考えていません。当コースでは、学生が自ら進んで主体的に物事を考え、積極的に行動できるように配慮された教育システムの実施を心がけており、これからも継続的に改善していきます。

Q. 英語の授業、留学生とのふれ合いを多くしてほしい。

A. 英語の授業に飢えて(?)いるんですね。英語は単なるコミュニケーションの道具であり、一番大切なのは話す中身(授業の内容)だと思うのですが...。当コースとしては、学部教育では専門的な知識をきちんと習得してもらうことを第一に考え、英語で授業を行わずに日本語で実施しています。なお、当コースの学生の中に英語の授業に対する要望があることを考慮し、現在、英語で書かれた文献を読んで発表する授業の新設なども検討しています。留学生とのふれ合いに関しては、当コースの各研究室には北大工学研究科の英語コースに所属する外国人留学生や海外からのインターンシップ学生がいますので、研究室に入る前の2年生あるいは3年生の皆さんも遠慮なく各研究室への訪問を歓迎します。また、各研究室が主催するゼミや講演会についても掲示板で適時アナウンスしていますので、希望すればいつでも参加することができます。さらに、当コースは学生の海外インターンシップへの支援にも力を入れていますので、海外で職業体験をすることも可能です。いつでも教員まで気軽に相談して下さい。

Q. 先生と語り合いたい。

A. いつでも歓迎しますので部屋に来て下さい... というのも月並みな答えだし、先生の部屋を訪ねるのに気が引ける人もいられるでしょう。そんなあなたに、先生と語り合うコツを伝授します！

- ・ 6月の運動会に参加する
- ・ 7月の資源杯ソフトボール大会に参加する
- ・ 10月の新歓パーティに参加する
- ・ 12月の卓球大会に参加する
- ・ 1月の綱引き大会に参加する
- ・ A棟やK棟をウロウロしてみる... などです。

当コースは少人数なので、皆さんが思ってるより先生は学生の顔と名前を覚えています。ちなみに下の写真は先日行われた運動会後のパーティの様子の模様です。先生方(矢印つけとききました)を中心に語り合いの輪ができていているのがわかると思います。お酒の場が苦手という人もいと思うので全ての人にお勧めはできませんが、年に数回あるパーティに積極的に参加するのも手かもしれませんよ。



撮影:菅原隆之さん(岩盤力学研究室)

新委員長のことば



川崎委員長

この4月から委員長になりました川崎了です。どうぞよろしくお願ひ致します。私の好きな言葉の1つに「成長することは変わる」というのがあります。この言葉の意味は、「人間の成長とは、月日が経過することに伴って身長、体重、胸回り(?)などが身体的(外面的)に変化することではなく、成功や失敗などによる喜怒哀楽を経験したり授業や書籍などから知識や教養を獲得したりすることによって精神的(内面的)に変化することである」と理解しています。すなわち、モノの見方、考え方、好み、思想などが変わることです。個人差があるため、1年ごとに変わる(成長する)場合もあるでしょうし、少し極端ですが1時間ごとに変わる(成長する)場合もあるかも知れません。この言葉のように、当コースの学生さんには夢と目標に向かって大きく変わってもらいたい、微力ながら教育システムの改善を進めていきたいと考えています。



川崎委員長



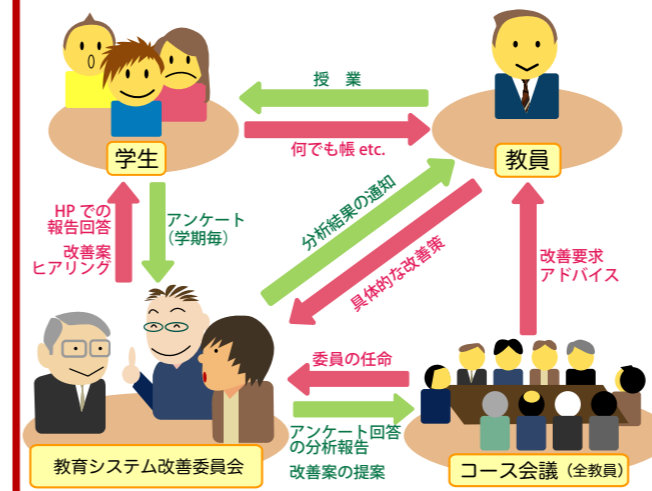
原田委員



佐藤(努)新委員

世界激変の二〇〇九年も夏を迎えました。皆さんいかがお過ごしでしょうか。資源循環システムコース・教育システム改善委員会も四月からメンバーが変わりました。新委員長として川崎先生、そして新たな委員として佐藤先生を迎え、強力体制となりました。本委員会はコースのカリキュラムや講義の内容を継続的にチェックし、問題を改善することが目的で設置され、今年で七年目を迎えます。皆さんに定期的にお願ひしているアンケートの分析や、改善案の提案などが主な活動内容となっています。

本コースにおける教育改善のしくみ



佐藤の一言

皆さんはよく「自立しなさい」と言われると思います。学生の期間が終わったらすぐに自立しなければならぬのですから、どの時代にあっても自立は学生の大きな課題です。「自立」を「世間や周りなど一切当てにせず、全ては自分の努力、能力次第」

「自立しなさい！」

そして何があっても自分が責任をとらばいいんだ」と受け止めないでください。そういう閉じられた自立は人を自立ならぬ孤立に追い込み、人を寂しくさせます。自立とは、孤立することではなく、人と連帯することです。互いに支え合い、また頼りあい、対立しながらも互いに許し合っ、そんな中からしか本当の自立は生まれて来ないのだと思います。自立に向かってどのような準備が必要か?今こそじっくり考える時です。

TEACHER OF THE YEAR 2008

毎年のアンケートで「すばらしかった科目」として最も評価された科目の担当教員は、Teacher of the YearとしてコースHPに掲載されています。2008年度のTeacher of the Yearは、

「粉体工学」**広吉 直樹 先生**



担当教員のコメント

大阪の中学時代、ある朝の全校集会でのことです。「我が校より市の美術展に数点出品しておりますが、その中で唯一、広吉直樹君の作品だけが... (皆の眼差しに胸を張る広吉、ずれたメガネを直してプリントを確認する校長、そしてしばし沈黙)... 落選しました」と発表されたことがあります。公の場で、学校関係で、個人として評価を受けたのは、以来30年ぶりの大快挙です。今後も精進していきます。

この科目によせられたコメントは

- ・ 暗記ではなくイメージで説明してくれたのがよかった
- ・ エネルギッシュだった
- ・ 粉体という新しい概念が学べた
- ・ 熱意があり、楽しく学ぶことができた
- ・ 教員の親切さと熱心さで頑張ろうと思えた
- ・ 講義がおもしろくて、資源にきて初めて興味をもてた
- ・ 難しい内容だったが丁寧でわかりやすかった ...etc

講義評価アンケート 氏版

第四号
発行元 教育システム改善委員会
式千九九年八月号